

団体の概要

2015年に学内組織（TSCP室、当時）の直轄として設立された学生団体であり、現在は学部生・院生15名で構成されている。

教職員との連携による活動の展開

実効性のある取り組みを行うために、大学の運営陣・サステナビリティが専門の大学教員と連携して活動を展開している。



「学生一人一人によるサステイナブルキャンパス」を目指した取り組み

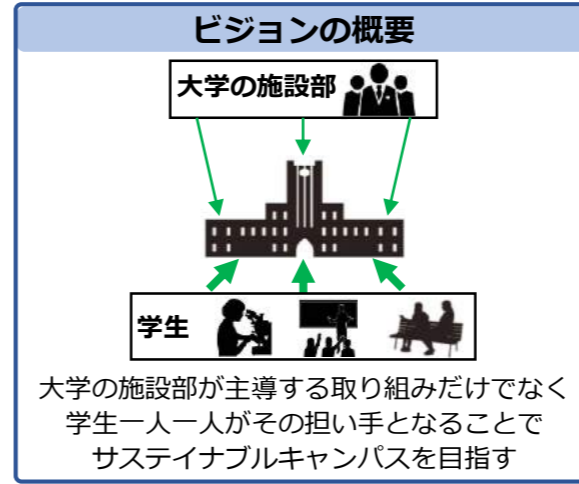
活動のビジョン：「学生一人一人によるサステイナブルキャンパス」

サステイナブルキャンパスに向けた取り組みの現状

東京大学はサステイナブル社会の実現に向けて、2008年にTSCP（UTokyo Sustainable Campus Project）を立ち上げサステイナブルキャンパスづくりに先導的に取り組んできた。現在は大学施設部のTSCPチームが省エネのための設備改修などを行っているが、TSCPによる取り組みはキャンパスの最大の利用者である学生の参画が不足していた。

「学生一人一人によるサステイナブルキャンパス」

そこで私たちはTSCP学生委員会を立ち上げ、キャンパスのさらなるサステイナブル化を目指した様々な取り組みを行っている。活動にあたりまず私たちは、学生のサステナビリティ意識を啓発し、学生一人一人をサステイナブルキャンパスづくりの担い手とすることが重要であると考えた。学生の意識が高まり、率先して環境負荷の削減につながるようキャンパスを利用することはサステイナブルキャンパス実現の大きな原動力になるからである。これは結果として、サステナビリティ意識の高い学生を社会に輩出することにもつながる。以上を踏まえ、私たちは「学生一人一人によるサステイナブルキャンパス」という大きなビジョンを掲げ、学生がキャンパスのサステイナブル化のために考え、行動するための後押しをする活動を行っている。現在は主に下記の活動①～④を行っており、今後はさらに、より多くの学生を巻き込んだ活動を展開していく予定である。

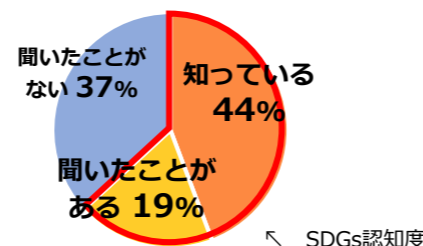


活動① 学生のサステナビリティ意識を調査

東京大学の学生のサステナビリティ意識の現状把握のため、2018年10月に東大生2063人にSDGsとサステナビリティ意識に関するアンケートを実施し、その結果を分析した。

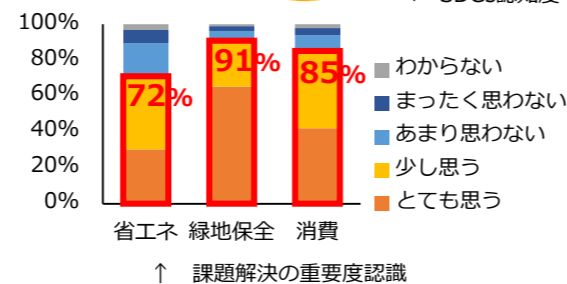
SDGsの認知度

SDGsについて19%の学生が「聞いたことがある」、また44%の学生が「知っている」という結果が得られた(右図)。ここでは、「知っている」と「聞いたことがある」を「SDGsを認知している」と捉え、合計して東大生のSDGs認知度は63%であると算出した。



キャンパスにおける各課題解決の重要度認識

東京大学のキャンパスライフという身近なサステナビリティに関して調査した。「省エネ」「緑地保全」「環境に配慮した消費」の3点に関して「とても重要だ」と「少し重要だ」と回答した学生の割合は全体的に高かったが、省エネについては他の項目と比べて重要度認識の割合が少なかった(右図)。

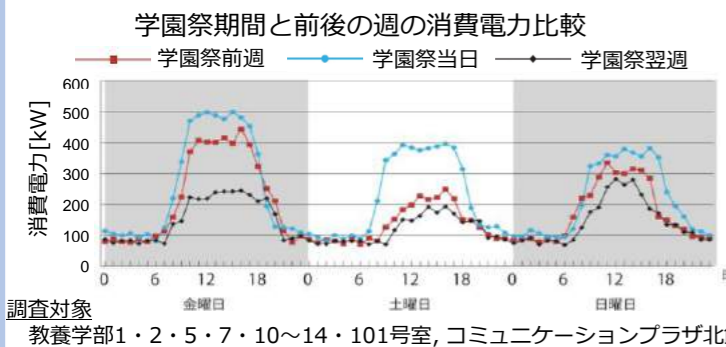


このアンケートにより東京大学の学生のサステナビリティ意識の現状把握を行うことができた。学生のSDGs認知度や課題解決の重要度認識は想定よりも高かったが、さらに向上させるため、意識啓発を目的としたイベントの実施が大切であると考えられた。また、キャンパスの省エネの重要度認識は相対的に低かったため、エネルギー消費実態の可視化などの省エネの重要性のアピールや、学生活動や研究活動と両立した「学生から支持される省エネ施策」の推進が重要であると考えられた。

活動② キャンパスのエネルギー消費実態調査・可視化

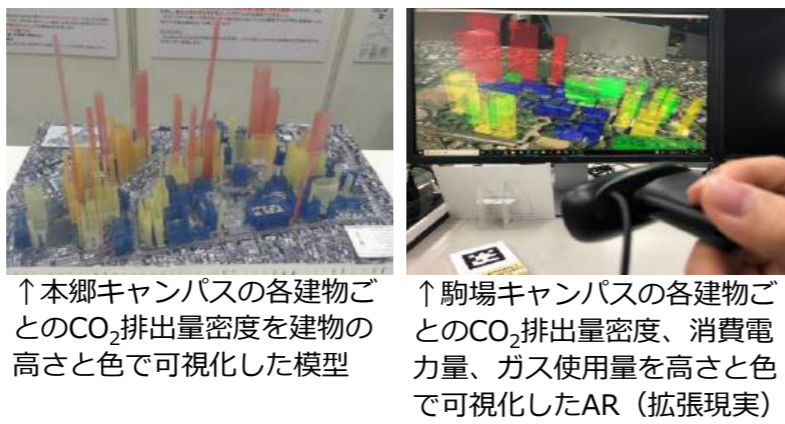
学園祭時における電力消費の調査

学園祭実施時の環境へに負荷に着目し、2016年11月の学園祭期間における対象建物の消費電力量調査を行い、通常時に比べて約100kW以上多く電力を消費していることが分かった。これらの情報を元に、学園祭実行委員会と連携して対策を検討する予定である。



キャンパスCO₂排出量密度模型とAR模型

キャンパスのエネルギー消費の現状を学内外に知ってもらうために、模型やARを用いて可視化し、大学の図書館やエコプロ2018などで展示した。



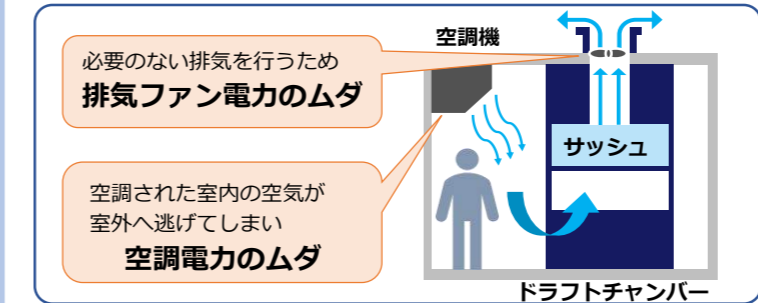
活動③ 実験系建物の省エネルギー化を目指した情報発信

「SHUT the SASH」～ 研究活動と両立した省エネを目指して～

東京大学では、エネルギー消費全体のうち化学などの実験系のエネルギー消費が占める割合が多い。そのため、研究活動と両立した省エネ対策を推進することが重要である。そこで私たちは、ドラフトチャンバー※におけるムダに着目し、その適切な使用方法について学生への啓発活動を行っている。 ※有害気体が発生する実験で用いる局所排気装置

ドラフトチャンバーの電力の無駄

実験をしていない時に、ドラフトチャンバーのサッシを開け放しにしていると、電力のムダが生じてしまう(下図)。そこで私たちは、未使用時にサッシを閉めることを学生に啓発する、「SHUT the SASH」という活動を展開している。



ムダ削減に向けた情報発信

- ムダが生じている現状を学生に知ってもらうために、センサーを用いて実験棟の各階ごとに毎月の「未使用時の開放時間（ムダ時間）」を計測し、前月のムダ時間のグラフを載せたポスターをキャンパス内に掲示している。
- 学生に「SHUT the SASH」活動の内容を広く知ってもらうために、ドラフトチャンバーに貼る啓発ステッカーや活動内容の説明書を、装置を使用している研究室に配布している。



↑ 啓発ポスター



↑ 啓発ステッカー

活動④ 学生のサステナビリティ意識の啓発

学生のサステナビリティ意識の啓発を目的として、イベントの実施、学生向け冊子の作成を行っている。

ワークショップ

キャンパスライフという身近なスケールにおけるサステナビリティについて学生同士で話し合うイベント。参加した学生同士で、キャンパスが抱える様々な課題とその有効な解決策を考え、交流を深める場になっている。



キャンパスツアー

省エネと生物多様性の2つの観点からキャンパスのサステナビリティについて理解を深めるイベント。参加者とキャンパスを周りながら、建物の省エネの工夫と、生息する野生生物を紹介している。



「東大生×SDGsハンドブック」の作成

SDGsについて理解し、キャンパスでできるSDGs達成へ向けた行動について解説した小冊子を作成した。学内の教員へのインタビューや工学・農学の教員からの寄稿を中心に構成され、サステナビリティについて深く理解できる冊子となっている。入学式などで広く学生に配布した。

